

住友化学のリスクコミュニケーション

～ PRTR大賞2007シンポジウム～

2007年7月17日
住友化学株式会社

目 次

ページ

■環境コミュニケーション	3
○ 情報開示（サイトレポート、地域広報紙）	4～5
○ 実際のリスクコミュニケーション	6
■事例紹介		
○ 環境対話集会	7～8
○ 西濃地域化学物質リスクコミュニケーション	9～10
→ 参加者（地域住民）の声	11
○ JRCC地域対話	12
参加者（地域住民）の声	13
○ 環境モニター制度	14
○ 海外の環境保全を支援	15
○ 感覚公害への対応		
・ 景観改善（焼却炉白煙対策）	16
・ 光害対策（水銀灯に傘取付け）	17
・ 臭気対策（排水処理設備）	18
■今後のリスクコミュニケーション	19

環境コミュニケーション

工場版レポート発行とコミュニケーション推進

全社方針

課題

具体的取組

留意点

①情報開示の充実 ②双方向対話の推進

①環境レポートなどによる情報公開

②目的別の多様なリスクコミュニケーションの展開

③全社水平展開の実施

工場の創意と主体性を重視 & 地域性考慮

大阪工場

都市型工場
すぐそばにユニバーサルスタジオ
周辺は居住区

大分工場

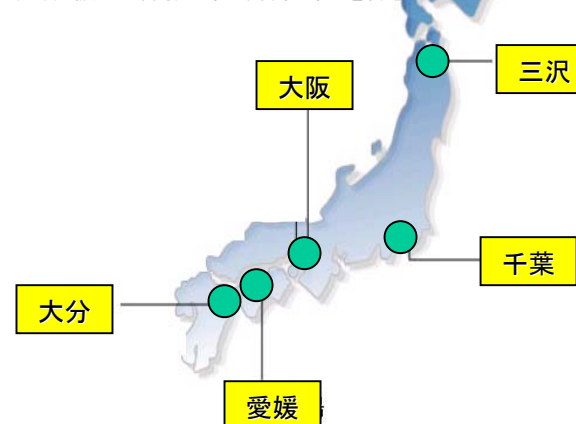
都市型工場
周辺は居住区

愛媛工場

住友化学発祥の地
住友城下町(新居浜市)

工場ロケーション

(注)大阪には、岡山プラント、岐阜プラントを含む



三沢工場(青森県)

三沢市郊外に立地
工場隣は米軍基地

千葉工場

京葉臨海工業地帯
官庁・業界等、国内外視察多数
埋立地に工場立地

情報開示

■事業所版環境レポートの発行 各工場で特徴ある冊子づくり



化学物質管理、リスクコミュニケーション、環境レポートなどのテーマでの発表事例

■講演・講義活動 様々な社外発表の場を活用

テーマ	聴講者	年月、場所
住友化学の環境レポート	企業	06/12、東京都・大阪市
化学工業の環境対応	学生	06/12、相模原市
住友化学の化学物質対応	フリー	06/ 9、大阪市
千葉工場のリスクコミュニケーション事例	フリー	06/ 4、千葉市
愛媛工場の化学物質管理	NPO、地域住民、行政	05/12、新居浜市
事業者による化学物質対策	行政	05/12、所沢市
大阪工場のリスクコミュニケーション事例	企業	05/ 1、大阪市

■地域広報紙の発行

地域の皆様との信頼関係の向上に寄与

… 愛媛、大阪、大分の3工場で刊行



地域広報紙（愛媛工場）



創刊号 2005年4月10日
 発行 住友化学株式会社 愛媛工場
 〒791-8521 愛媛県西条市西条
 TEL:099-37-1711 FAX:099-37-4381
 連絡先 広報課 (02号)



住友化学 愛媛工場の事業のあゆみ

年次	事業
1973年	住友化学工業株式会社設立
1974年	高松製薬所開設
1975年	高松製薬所増設
1976年	高松製薬所増設
1977年	高松製薬所増設
1978年	高松製薬所増設
1979年	高松製薬所増設
1980年	高松製薬所増設
1981年	高松製薬所増設
1982年	高松製薬所増設
1983年	高松製薬所増設
1984年	高松製薬所増設
1985年	高松製薬所増設
1986年	高松製薬所増設
1987年	高松製薬所増設
1988年	高松製薬所増設
1989年	高松製薬所増設
1990年	高松製薬所増設
1991年	高松製薬所増設
1992年	高松製薬所増設
1993年	高松製薬所増設
1994年	高松製薬所増設
1995年	高松製薬所増設
1996年	高松製薬所増設
1997年	高松製薬所増設
1998年	高松製薬所増設
1999年	高松製薬所増設
2000年	高松製薬所増設
2001年	高松製薬所増設
2002年	高松製薬所増設
2003年	高松製薬所増設
2004年	高松製薬所増設
2005年	高松製薬所増設

【なつかしの写真展】



創刊にあたっての「あいま」

住友化学工業株式会社は、創業以来、社会に貢献することを使命として、様々な事業を展開してきました。その中でも、愛媛工場は、地域社会との絆を深め、持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。

本紙は、愛媛工場の事業のあゆみ、最新の技術情報、安全衛生情報などを紹介し、地域社会との絆を深め、持続可能な社会の実現に貢献することを目的としています。

本紙の発行は、地域社会との絆を深め、持続可能な社会の実現に貢献することを目的としています。

ものを作っています。



住友化学工業株式会社は、様々な化学製品を生産しています。その中でも、最新の技術を用いた生産設備を導入し、高品質な製品を生産しています。

本紙は、最新の技術情報、安全衛生情報などを紹介し、地域社会との絆を深め、持続可能な社会の実現に貢献することを目的としています。



住友化学工業株式会社は、様々な化学製品を生産しています。その中でも、最新の技術を用いた生産設備を導入し、高品質な製品を生産しています。

本紙は、最新の技術情報、安全衛生情報などを紹介し、地域社会との絆を深め、持続可能な社会の実現に貢献することを目的としています。



Vol.2 2005年10月9日
 発行 住友化学株式会社 愛媛工場
 〒791-8521 愛媛県西条市西条
 TEL:099-37-1711 FAX:099-37-4381
 連絡先 広報課 (02号)



工場長あいさつ

この紙をお読みいただき、ありがとうございます。愛媛工場は、地域社会との絆を深め、持続可能な社会の実現に貢献することを使命としています。

本紙は、最新の技術情報、安全衛生情報などを紹介し、地域社会との絆を深め、持続可能な社会の実現に貢献することを目的としています。

第一回経済産業大賞

カプロラクタム「ものづくり日本大賞」受賞

2005年9月10日、経済産業省主催の「ものづくり日本大賞」において、カプロラクタムが「第一回経済産業大賞」を受賞しました。

本紙は、最新の技術情報、安全衛生情報などを紹介し、地域社会との絆を深め、持続可能な社会の実現に貢献することを目的としています。

愛媛工場では地球にやさしい「土」づくり

愛媛工場では、地球にやさしい「土」づくりを行っています。最新の技術を用いた生産設備を導入し、高品質な製品を生産しています。

本紙は、最新の技術情報、安全衛生情報などを紹介し、地域社会との絆を深め、持続可能な社会の実現に貢献することを目的としています。



住友化学工業株式会社は、様々な化学製品を生産しています。その中でも、最新の技術を用いた生産設備を導入し、高品質な製品を生産しています。

本紙は、最新の技術情報、安全衛生情報などを紹介し、地域社会との絆を深め、持続可能な社会の実現に貢献することを目的としています。

住友化学工業株式会社は、様々な化学製品を生産しています。その中でも、最新の技術を用いた生産設備を導入し、高品質な製品を生産しています。

本紙は、最新の技術情報、安全衛生情報などを紹介し、地域社会との絆を深め、持続可能な社会の実現に貢献することを目的としています。



【製品紹介】カプロラクタムとは？

カプロラクタムは、様々な用途に使用される化学製品です。最新の技術を用いた生産設備を導入し、高品質な製品を生産しています。

本紙は、最新の技術情報、安全衛生情報などを紹介し、地域社会との絆を深め、持続可能な社会の実現に貢献することを目的としています。

実際のリスクコミュニケーション

目的(ねらい)	活動内容	留意点
環境リスクを地域で考える	<ul style="list-style-type: none"> ■自治体リスクコミュニケーションモデル事業参画 <ul style="list-style-type: none"> ・環境コミュニケーション in ちば(環境対話集会) (千葉) ・西濃地域化学物質リスクコミュニケーション (岐阜) 	情報共有と相互理解の基本に徹する
地域一体となった環境保全	<ul style="list-style-type: none"> ■地域住民による環境モニターとの対話制度 (大分) ■地元大学・高専への環境問題委託研究 (愛媛) 	地域との信頼関係に基づく地域パワーの活用
地域の社会学習・産業発展への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■生活密着学習ツアー(三沢) ■産業観光ツアー(岡山) ■職場体験型インターンシップ受入 (愛媛、岡山、三沢ほか) 	企業は社会の公器を自覚
海外の環境保全を支援	<ul style="list-style-type: none"> ■韓国初の水質総量規制導入支援 (千葉) <ul style="list-style-type: none"> 韓国環境庁の調査・広報DVD作製に全面協力 ■各国研修生に大気汚染対策の教育実施 (大阪) ■タイ国政府・企業へのVOC対策研修(千葉) 	地球環境保全に国境なし
米軍基地との交流による安全強化	<ul style="list-style-type: none"> ■三沢米軍消防隊との協力体制構築(三沢) 	地縁を活かした国際交流
説明責任を果たす	<ul style="list-style-type: none"> ■工場定期修理説明会 ■建家建設工事説明会 ■電波障害対策説明会 ほか } (各工場)	徹底した事前説明で、地域との信頼を醸成
企業連携による地域との対話	<ul style="list-style-type: none"> ■化学産業連携による地域対話(レスポンスフルケア対話) (千葉、大阪、大分) ■近隣企業連携でのミニ地域対話(大分) 	地域連携は地域全体のパフォーマンス向上に寄与

環境対話集会(リスクコミュニケーションモデル事業) ＜行政・住友化学共催＞

環境コミュニケーション in ちば

環境対話集会

2006

2 / 4 (土)

住友化学㈱ 千葉工場

開催概要

■日時: 2006年2月4日(土) 14:20～17:00
(集合はJR姉ヶ崎駅 14:00)

■場所: 住友化学㈱ 千葉工場
事務所3階講堂(市原市姉ヶ崎)

■主催: 千葉県、市原市、袖ヶ浦市、住友化学(株)

■専門家等:

進行役(ファシリテーター)

荒川いずみ(環境情報コミュニケーションズ)

大庭幸男(環境情報コミュニケーションズ)

■専門家(化学物質アドバイザー)

荒井 眞

■プログラム

- (1)工場見学(バス車中より)
- (2)住友化学㈱ 千葉工場の取り組み
- (3)千葉県の取り組み
- (4)意見交換会

■募集者数: 50名(申込者多数の場合抽選)



■集合場所・時刻:

当日は、市内房総線+崎駅より送迎のバスが
出ます。姉ヶ崎駅西口外に14:00までにご集合下さい。
お車で来場の際は、14:10までに住友化学㈱ 千
葉工場玄関で受付をお願いします。



傍聴者募集

化学物質に関する環境リスクについて
事業所をモデルに、地域で考える
対話集会を開催します

参加費
無料

現在、日本国内に製品として流
通している化学物質は、約5万
種類と言われています

化学物質は、私たちの生活を豊かにし、
また生活の質の維持向上に欠かせない
ものとなっている一方で、日常生活
の様々な場面、製造から廃棄に至る
事業活動の各段階において、環境を
経由して人の健康や生態系に悪影響
を及ぼすおそれがあります。

千葉県内には化学工業や
化学物質を取り扱う企業・
工場が立地しています

地域全体で環境リスクの低減を進め
ていくには、正しい情報の共有と互い
の取り組みを理解するために、住民・
企業・行政が良く話し合い、専門家
の助言を得ながらコミュニケーションを
取っていくことが大変重要だと考えて
います。

「環境対話集会」を開催します

このような背景のなかで、千葉県では
地域における化学物質に関するリス
クコミュニケーションをさらに推進す
るために、市原市、袖ヶ浦市及び住友
化学株式会社と共同で、環境対話集会
を開催します。

企業の取り組みの現状についてはも
とより、地域の環境に関する課題など
についても、活発な意見交換の場にし
ていきたいと考えております。

傍聴者を募集します

対話を通じて、環境リスク低減に関す
る情報の共有と相互理解を深めるた
めに、対話集会の傍聴を希望される
方を募集します。一人でも多くの方
々にご参加頂けようようお願い申し上
げます。

■お申し込み■

傍聴希望者は、裏面の応募用紙に必要事項を記入し、2006年
1月10日(火)までにFAXあるいは郵送によりお申し込み下さい。
開催の1週間前までに(葉書 or FAX)にて、参加票を送付致します。

■問い合わせ・申し込み先■

〒260-8667 千葉県中央区市場町 1-1
千葉県環境生活部 環境政策課 環境影響評価・指導室
TEL:043-223-4665 FAX:043-222-8044
URL:http://www.pref.chiba.jp/syozoku/e_kansei/index.html

環境対話集会(リスクコミュニケーションモデル事業) (住友化学千葉工場)

環境コミュニケーション in ちば 環境対話集会

化学物質に関する環境リスクについて事業所をモデルに地域で考える「対話集会」を千葉県、千葉縣市原市、千葉県袖ヶ浦市及び住友化学の共催で実施した。

<2006年2月4日(土曜日)>

場 所 : 住友化学千葉工場

参加者 : 対話集会16名(傍聴者約80名)

内訳

- ・市 民(地域住民、NPO、生協関係者、学生)
- ・事業者 ・行 政
- ・司会進行(ファシリテータ)
- ・化学物質アドバイザー(インタープリター)

プログラム :

- 工場概要説明
- 工場見学
- 意見交換会

- ・報告1 住友化学千葉工場における化学物質
対策に関する取組状況
- ・報告2 千葉県における化学物質の排出の特徴と
今後の取組み



リスクコミュニケーションモデル事業<岐阜県主催>

リスクコミュニケーションモデル事業

岐阜県では、2003年度(H15年度)より、リスクコミュニケーション普及のために各圏域において、リスクコミュニケーション等に関する懇談会や研究会の設置、講演会等を開催した。

また、その一環としていくつかの事業所においてリスクコミュニケーションをモデル的に実施

<2003年度>

■西濃地域 (2004年3月5日)

- ・帝人デュポンフィルム(株)岐阜事業所、
日本合成化学工業(株)大垣事業所、イビデン(株)

<2004年度>

■岐阜地域 (2005年1月25日)

- ・(株)トーカイ

■西濃地域 (2004年12月2日)

- ・東レ(株)岐阜工場、フタムラ化学(株)大垣工場、**住友化学(株)岐阜プラント**

■西濃地域 (2004年12月17日)

- ・大垣化成工業(株)、三洋電機(株)岐阜事業所、太平洋工業(株)

■中濃地域 (2005年1月25日)

- ・ソニーイーエムシーエス(株)美濃加茂テック



リスクコミュニケーションモデル事業への参画 (住友化学岐阜プラント)

西濃地域化学物質リスクコミュニケーション

事業者と住民による「情報公開の機会」と「地域住民の声を聞く機会」の場づくりとしてモデル的なリスクコミュニケーション事業を、岐阜県の主催で実施した。

<2004年12月2日(木)>

場 所 : 岐阜県大垣市 情報工房スィンクホール

参加者 : 地域代表者・事業者・行政など約30名
(傍聴者多数)

- 内訳**
- ・地域代表者、行政
(区長、小学校長、議会議長、保育園長、
漁業組合長、役場関係者ほか)
 - ・事業者
 - ・司会進行(ファシリテータ)
 - ・化学物質アドバイザー(インタープリター)

プログラム :

- 工場概要(東レ、フタムラ化学、**住友化学**)
- 取組み説明(")
(環境安全、化学物質管理ほか)
- 質疑応答(")



参加者（地域住民）の声（事例）

千葉県環境対話集会

感想

- ①化学物質の話は理解しにくい。
- ②時間が圧倒的に足りない。
対話より質疑応答になった？
- ③取り上げる課題が多すぎ。
- ④インタープリターが十分に機能していない。
- ⑤ビデオカメラが多く、監視されている？
- ⑥事業者対市民の構図の印象あり
- ⑦傍聴者も意見を言いたかった
- ⑧工場見学は良かった。

要望

- ①市民が知りたいことにも関心を持って
- ②テロ対策はどうなっている？
- ③保安防災の話をもっと聞きたい
- ④今後も定期開催を

岐阜県リスクコミュニケーション

感想

- ①全般に難しかった
- ②わからないことが少しは理解できた
- ③工場の説明9割、質問1割はアンバランス
- ④時間が足りない。
- ⑤こうした場での発言は苦手
- ⑥インタープリターの出番なし
- ⑦優良企業としてのPR多すぎる
- ⑧PRTR法の効果が出始めた。

要望

- ①大地震などの防災体制を聞きたい
- ②事故時の地域との連絡体制が不明
- ③過去の問題点、トラブルに対する対策の説明が欲しい
- ④今後も継続して初めて評価できる

日本レスポンシブル・ケア協議会(JRCC)の地域対話への参画 (住友化学 千葉工場・大阪工場・大分工場)

地域対話

・・・全国15地区で開催(住友化学は、千葉・大阪・大分地区で参画)

地域説明会 (従来)

- 単なる報告・説明と短時間の質疑応答



地域対話 (現在)

- 対話、意見交換を目指す
 - ・時間をかけた質疑応答
 - ・パネル討論
 - ・外部の方の講演、討論への参加

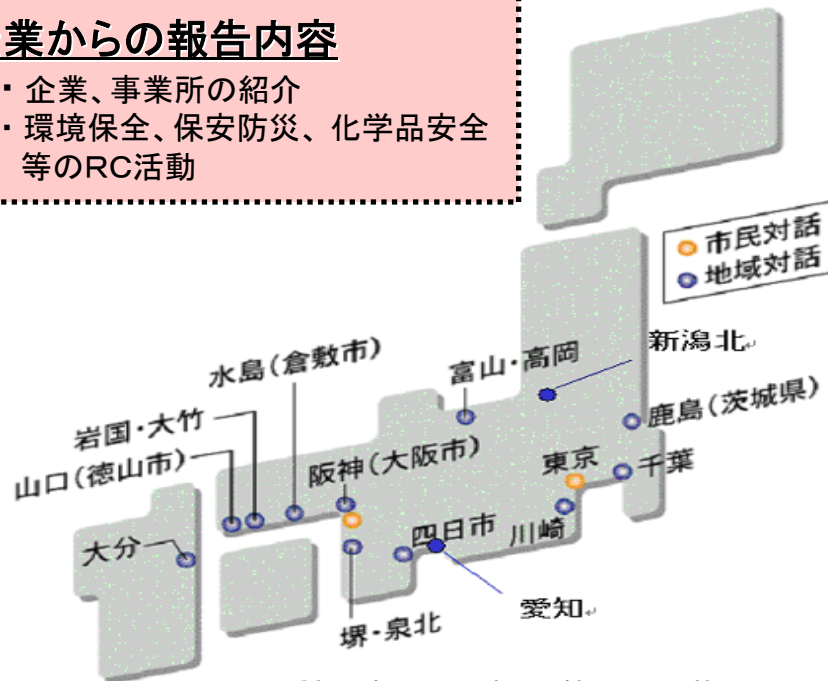
対象

地域住民、行政、近隣企業ほか

企業からの報告内容

- ・企業、事業所の紹介
- ・環境保全、保安防災、化学品安全等のRC活動

- ・RC(Responsible Care):レスポンシブル・ケア(責任ある配慮)
1985年にカナダで始まった。
全ライフサイクルにわたって、環境・安全・健康・品質を確保する事業者による自主活動のこと。世界52の国と地域でRCが実施されている。
- ・JRCC(Japan Responsible Care Council)
日本でRCを推進するために1995年に日本化学工業協会内に設置された組織



- ・阪神は大阪、兵庫の2箇所で開催。
- ・山口は山口東、山口西の2箇所で開催。

参加者（地域住民）の声（事例）

JRCC地域対話

感想

- ①専門的な言葉が理解できなかった。
- ②質疑応答の時間が足りない。
- ③配布されない資料に興味があった。
- ③工場見学は企業を知る手がかりとなった。
- ④化学設備は機械と配管だらけで、ただで理解できなかった。
- ⑤事前アンケート活用は評価できる
- ⑥土曜開催は良かった。
- ⑦ネガティブ情報の開示が少ない

要望

- ①大規模地震時の安全性、環境汚染を知りたい
- ②臭気、振動対策等にもっと力を入れて欲しい
- ③重大事故発生時は直ちに公表を
- ④企業利益のみを考えず、地域住民の安全を優先すべき



大阪地区「地域対話」



千葉地区「地域対話」

環境モニター制度 (住友化学大分工場)

1. 開催頻度

年2回

2. 開催時期

6月、12月頃

3. 参加者

モニター実施者 : 町内会各地区(全9地区)の代表者 (10人前後)

当社 : 総務、RC他の関係者 (5人前後)

4. 意見 (事例)

<赤潮と冷却水>

- ・〇〇に冷却水を流したそうだが、その後、赤潮が発生。因果関係は？

<臭気問題>

- ・住友化学に由来すると思われる臭気が最近気になる。

<工場見学の実施>

- ・休日に工場見学しても、参加者は増えない。
見学したいという興味がわからない。

<放流口での遊び>

- ・排水放流先で子供たちが遊んでいたの、注意した。

<ボイラの燃焼不備によるすす放出>

- ・この間はボイラからススが出て、迷惑した。
野菜などに少しついたようである。安全・安定操業を徹底しろ。
- ・工場周辺地域にこの件の報告が遅れたのは遺憾。後手に回るな。
原因が住化と断定できなくても、かもしれない情報として流してほしい。
- ・モニターにはとにかく早く連絡すべき。

環境モニター制度

- ・何らかの異常時、所定のルートでの通報体制確立
- ・定例会はモニター会議として開催 (face to face)



海外の環境保全への協力・支援 (住友化学千葉工場)

韓国での水質総量規制制度導入支援

(2006年3月9日)

- 韓国では、韓江水系に韓国初となる水質総量規制制度の導入を検討中。
- 韓国流域環境庁が千葉工場を訪問し、排水処理や焼却炉の各施設を取材。意見交換実施。
あわせて、国民に対する本制度の普及・定着に向けた教育・啓発資料（ビデオ）の製作にも協力。



タイでのVOC環境基準・排出基準策定支援

(2006年10月20日)

- タイでは、日本をモデルにしたVOC規制を検討中
- タイ資源環境省公害防止局およびパプタプット工業地帯企業関係者が千葉工場を訪問し、リスク評価に基づく当社の化学物質管理の考え方、VOC排出削減実施事例、地域住民に対するリスクコミュニケーションの事例等について調査、研修を実施。



景観改善(焼却炉白煙対策) (住友化学大阪工場)



排出ガスを冷却し、水分を除去することで白煙を削減 (2006年12月)

光害対策(水銀灯に傘取付け)
(住友化学岡山プラント)

夜間照明に関する苦情に配慮

* あわせて、工場正門の照明にも赤外線センサーを設置し、車両通行時以外の照明を大幅にカット)



臭気対策(排水処理設備) (住友化学岐阜プラント)

曝気槽テント



排水貯槽



活性炭吸着塔

- ・ 活性汚泥処理設備の上部をテントで覆い、テント内の空気を活性炭に通して脱臭する仕組み。
- ・ 設備の導入に際しては、臭気マップを作成して臭気の発生源を特定することで、より効果的な対策となった。
- ・ これにより夏季も良好な周辺環境を維持することが可能になった。

今後のリスクコミュニケーション

①業容の反映（B to B）

- ・地域住民は住友化学を良く知らない

②地域住民の関心

- ・保安防災面にも大いに関心あり

大雨、地震などの異常現象時、 火災爆発などの重大事故発生時
テロ発生時 等々

③何のためにする？

- ・アリバイ作りのコミュニケーションは要らない
- ・より確かな信頼を得る

今後の活動

- ・地域性に配慮
- ・実施のテクニック、標準化にはこだわらない。
→ とにかく継続して、いろいろチャレンジ